

ALS の患者に対する行政の差別発言に抗議します！

埼玉県の ALS 患者高田泰洋さんが、埼玉県吉川市の障がい福祉課職員の暴言に抗議しています。

私たち ALS 協会神奈川県支部も、吉川市に対して強い抗議の意を表明いたします。

NHK 首都圏 NRWS によると、経緯は以下の通りです。

NHK NEWS WEB ALS患者に不適切発言で抗議

04月16日 19時59分

埼玉県吉川市の職員が、難病のALS＝筋萎縮性側索硬化症の患者の男性に不適切な発言をしたとして、男性側が市に対し、抗議声明を提出したことがわかりました。

これは、全身の筋肉が動かなくなる難病、ALSの患者で、吉川市に住む高田泰洋さん(43)が弁護士と会見を開き、明らかにしました。

それによりますと今月12日、市の障がい福祉課の職員3人が重度訪問介護の手続きのために自宅を訪れた際、高田さんが、弁護士が同席のうえで日常的に使っている文字盤で会話しようとしたところ、男性職員の1人が「時間稼ぎですか」と発言したということです。

高田さんは、この発言について、「言語障害などがあるすべての人に対する侮辱だ」として、吉川市の中原恵人市長に対して、15日、抗議声明を提出したことということです。

会見で、高田さんは「病気が原因でことばを伝えるのに時間がかかるのに、手続きを遅らせているような言われ方をして悔しい」と話していました。

一方、吉川市障がい福祉課は「患者の男性にではなく、手続きの際に一緒にいた弁護士に対する発言だったが、誤解させてしまったことは申し訳ない。今後、男性本人に謝罪したい」としていません。<https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20190416/0028463.html>

2016年に岡部 ALS 協会前会長が障がい者総合支援法改正案の参考人として衆議院委員会に出席しようとした際、事前協議の中で「やりとりにかかる時間がかかる」などとして出席に反対した議員がいたという経緯があり、大問題となったことは記憶に新しいところです。

そのような問題が明らかになったその後、多くの障がい者団体の働きもあって「障がい者差別解消法」が成立し、さらにそれを受けた形で、全国の自治体が障がい者に対しての「職員による対応要領」を決めてきた経緯があったにもかかわらず、なお吉川市のような市職員による差別問題がまだ起きてしまったということです。

このような事態に対して、私たち ALS 患者・家族・支援者は強く抗議し、世界の障がい者と連帯しつつ、一市職員の失態として矮小化することを許さず、あらゆる障がい者差別を克服するために、これからも強く訴え行動していく所存であります。

2019年4月17日

日本 ALS 協会神奈川県支部